

2016年 平和講演会と映画上映

参加費無料

# 放射線を浴びたX年後

これは、遠い時代・遠い場所の話ではなく私たちの「X年後」の物語である

1956年アメリカが行ったビキニ水爆実験で第五福竜丸以外にも多くの日本の漁船と乗組員が被爆していた。消し去られ、歴史から葬り去られようとした被ばくの実相を高知県で地道に調査し続けた教師と高校生の足跡をたどった「X年後Ⅰ」。「私の父は、なぜ死んだのか？」早死にした父の死に疑問を抱き、調査し始める娘。半世紀前の太平洋核実験で父は「被ばく」していた。私たちの未来に及ぼす核兵器の実相に迫る「X年後Ⅱ」。平和と核のない世界への思いを語って頂きます。



とき

6月11日(土) 午後1時～5時30分

ところ

男女共生推進センター 6階ホール

(和歌山市あいあいセンター)

和歌山市小人町29 電話073-432-4704



講師

伊東英朗 監督

(南海放送ディレクター)

## プロフィール

南海放送ディレクター。1960年愛媛県生まれ。1993年からビデオアーティストとして、バンクーバー国際映画祭、ベルリンビデオフェスト、イギリス短編映画祭など海外映画祭で招待上映を重ねる。2004年から取材を始めた太平洋核実験による被ばく問題では、『わしも死の海におった』で、『地方の時代』映像祭グランプリ、石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞を受賞。映画『放射線を浴びたX年後』は2012年の全国公開から多大な反響を呼び、同年のキネマ旬報ベストテン入り、ギャラクシー賞報道活動部門大賞など、数多くの賞を受賞

## 映画上映と講演会

- ①「放射線を浴びた X年後 Ⅰ」 午後1時～2時30分
- ②「放射線を浴びた X年後 Ⅱ」 午後2時45分～4時15分
- ③講演会 午後4時20分～5時20分



1954年アメリカが行ったビキニ水爆実験。当時、多くの日本の漁船が同じ海で操業していた。にもかかわらず、第五福龍丸以外の「被ばく」は、人々の記憶、そして歴史からなぜか消し去られていった。間に葬られようとしていたその重大事件に光をあてたのは、高知県の港町で地道な調査を続けた教師や高校生たちだった。その足跡を丹念にたどったあるローカル局のTVマンの8年にわたる長期取材のなかで、次々と明らかになっていく船員たちの衝撃的なその後…。そして、ついにたどり着いた、「機密文書」…そこには、日本にも及んだ深刻な汚染の記録があった――。

# 3.11後の日本に投げかける衝撃の告発。

地方ローカル局が追った渾身のドキュメンタリー!

南海放送(愛媛県松山市)では約8年にわたり、これまであまり知られることのなかった「もうひとつのビキニ事件」の実態を描いてきた。地元の被災漁民に聞き取りをする高知県の調査団との出会いがきっかけだった。制作した番組は「地方の時代映像祭 グランプリ」「民間放送連盟賞 優秀賞」「早稲田ジャーナリズム大賞 大賞」など、多数受賞。2012年1月に「NNNNドキュメント」(日本テレビ系列)で全国放送され反響を呼んだ「放射線を浴びたX年後」に新たな映像を加えた映画化。

今こそ僕らは正しい日本の未来を手繋り寄せるためにも、例えこの「X年後」を見なければ、体験しなくてはならない。これは貴重な日本と日本人の記憶です…

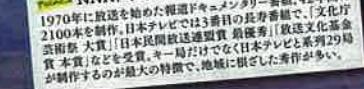
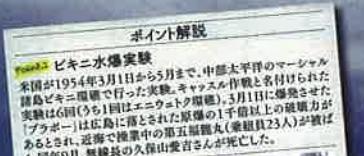
大林宣彦(映画作家)

日本は海で生きてきた国じゃないか。海の底で死んだ数えきれない生き物たちの命を返せ! おらんちの海を返してくれ!

早坂 晓(作家・脚本家)

ひとりの誠実な高校教師が不誠実な日本とアメリカの政府に対して抗議行動をしている。その映像は、日本全土が放射能の被害を受けているという恐ろしい事実を観客に伝え、この誠実な高校教師を絶望させてはならない、と静かに訴える。

山田洋次(映画監督)



《推薦人多数》——鎌仲ひとみ(映画監督)/斎藤貴男(ジャーナリスト)/志茂田豊樹(俳優)/鈴木邦男/むのたけじ(ジャーナリスト)他

ナレーション:鈴木邦男 朗読:保持千一郎 設定:三本清二 向井真道 鮎音山内登美子 ミキサ二山口誠 音響効果:西川尚司 金澤日出樹夫 宮部選 特別協賛:大ガス株式会社 協力:日本テレビ系「NNNNドキュメント」 Special Thanks:日暮晴子 プロデューサー:大西康司 監修:川東英朗 製作:若井信義監修 宮本配信協力:ロッキー・プロダクション 宣伝美術:成瀬翠 助成協力:「ビキニの海は忘れない」製作実行委員会 流浪に生きる「日本ドキュメンタリーム」写真協力:横田信造 第五福龍丸事件「焼津市 文部科学省選定(青年向き・成人向き) 日本映画ベンチラブ推奨 カトリック中央協賛会・広報推奨 2012年 SAC HIDCAM 60GB カメラ: Nikon ミニレリーズ 関西放送局60周年記念节目

自主上映団体募集中! お問い合わせ:ウッキー・プロダクション(接種) TEL:03-5213-4933 FAX:03-5213-4934 Mail:x@x311.info http://x311.info

# これは、遠い時代・遠い場所の話ではなく、私たちの[X年後]の物語である。

終戦直後の1946年。太平洋上で、米国による核実験が始まった。しかし多くの漁船が、その後100回を超える実験期間中も、近海でいつも通り操業を続けていた――。間に葬られたビキニ水爆実験の真相に迫る前作「放射線を浴びたX年後」から3年。

高知県室戸市ほか各地での継続取材は、新たな展開を迎えていた。安全や核をめぐって國のあり方があらためて問われる今、かつて日本の繁栄を支えた海の男たちのメッセージに、地方TV局のディレクターが迫った渾身のシリーズ第二弾!



東京で広告代理店を経営する川口美砂さん、59歳。故郷である高知県室戸市で、映画「放射線を浴びたX年後」を観たことがきっかけで、元漁師だった父の早すぎる死に疑問を抱き始める。当時「酒の飲みすぎで早死にした」と言われた父本当にそうなのだろうか? 高知県南国市在住の漫画家大黒正仁さんペシネーム和氣作。代表作「女帝」などもまた、映画との出会いがきっかけとなつて父の死に疑問を抱く。愛する父への強い思いが、二人を動かし始める。

一方、取材チームは放射線防護学の専門家と共に、1950年代当時、雨水の中に高い放射性物質が測定された沖縄、京都、山形を訪れ、独自に土壤調査をおこなう。民家の床板を外し、半世紀ぶりに現れた土。遠く離れた太平洋でおこなわれた核実験は、今も日本列島に影響を及ぼしているのだろうか?

元漁師たちの証言、破られた船員手帳、厚労省への情報開示請求――。日本列島を揺るがした巨大被ばく事件から半世紀を経た今、決して消え去ることのない「被ばく」の傷跡が、徐々に明らかになる。



半世紀前の太平洋核実験、室戸の漁師たちが伝える無言のメッセージとは――?

「私の父は、なぜ死んだのか?」

放射線を浴びた  
X年後 2

<http://x311.info>